

みんなで  
出かけよう



上十三・十和田湖広域定住自立圏圏域のイベント情報をお届けします♪

**三沢市**

**三沢市先人記念館企画展**  
ひろさわやすとろ  
~廣澤安任交遊録~

元斗南藩士であり、三沢に日本初の民間洋式牧場を開いた廣澤安任の交遊録を探ります。

とき 開催中～  
平成27年3月29日(日)  
午前9時～午後4時  
ところ 三沢市先人記念館

入館料 高校生以上 100円  
小中学生 50円  
幼児以下 無料

問三沢市先人記念館 ☎03009

**ニューイヤー・フレッシュコンサート**

三沢市出身音大生と音大卒業生によるコンサート

とき 平成27年1月6日(火)  
午後6時30分～

ところ 三沢市公会堂小ホール

問三沢市中央公民館 ☎038711



**横浜町**

**横浜なまこフェア**

正月名物「横浜なまこ」を一足先に期間限定、数量限定で味わえます。

とき 12月1日(月)～14日(日)

ところ

- ▶道の駅よこはま菜の花プラザ
- ▶トラベルプラザ・サンシャイン

問横浜町産業振興課

☎0175-78-2111 (内線351)

**秋田県小坂町**

**クリスマスマーケットin小坂**

ドイツ人鉦山技師クルト・ネットーの故国ドイツの伝統的イベント「クリスマスマーケット」を開催します

とき 12月6・13・20日  
いずれも土曜日

ところ 明治百年通り (天使館ほか周辺施設)

問小坂町産業課観光商工班

☎0186-29-3908



**とわだの文化財 17** ~十和田市の文化財を紹介するコーナーです

問スポーツ・生涯学習課 ☎2313

**「金毘羅信仰」**

「金毘羅船々、追風に帆かけて…」と民謡に歌われる海上交通の守り神・金毘羅神は、香川県琴平町琴平山(象頭山)中腹に鎮座しています。

十和田市内にも金毘羅信仰の証しとなる石塔が、右に示すように9基確認されています。



— 深持字鳥ヶ森 —

- 市内に残る金毘羅信仰に伴う石塔一覧(造立年代順)
- 金毘羅山
- ① 伝法寺字旨沼 (文政10年)
- ② 藤島金毘羅山山頂 (文政11年)
- 金毘羅大権現
- ③ 深持字鳥ヶ森 (慶応2年)
- 金毘羅山
- ④ 矢神・稲生川治い (慶応3年)
- ⑤ 赤沼・新山神社前 (慶応4年)
- 金毘羅神社
- ⑥ 板ノ沢・御瀧神社 (明治15年)
- 金刀比羅大神
- ⑦ 三日市 (明治16年)
- ⑧ 切田字見世 (明治19年)
- 金刀比羅神社
- ⑨ 大下内・八幡神社 (大正10年)

古くから信仰の山であった琴平山中腹に、真言宗・松尾寺が建てられたのは平安時代です。その後室町期に寺を守るため鰐を神格化した守護神クニピーラを祀ったのが金毘羅権現の起源と伝えられています。江戸中期に全国的に最盛期に達する伊勢参りに次いで、江戸後期には金毘羅参りも大流行します。

市内に残る石塔は伊勢参りの石塔の数には遠く及びませんが、内神として神棚に金毘羅の社札などを祀っている家も多く見受けられます。上段の塔名変化の過程は、明治維新の際、神と仏を併せ祀ることを禁じられたため、神社として生き残ろうと、社名を模索した歴史に外なりません。最終的には明治22年「金刀比羅宮」に落ち着きました。

上段①は最も古く風化も激しいため造立背景は不明です。②は奥州街道の宿場町兼渡船場であった藤島の村民が旅人の道中安全と商売繁盛を祈った参詣記念塔であり、④は稲生川上水工事安全祈願の参詣記念塔であると伝えられています。

この2塔(②④)は金毘羅信仰の本義にかなうものと言えます。③は塔の左側面に9人の参詣者、右側面に6人の村役の名が刻銘されていることから村を挙げての参詣行だったと思われる。

参詣規模は、村単位、講単位、個人と一様ではなく、目的も時代が進むにつれ月並みな招福除災祈願へと変容していったようです。

【文責】市文化財保護協会